

鳥取県東部地区の林業の概要

令和3年9月

鳥取県東部農林事務所八頭事務所

目 次

- 1 東部地区の森林の現状
- 2 間伐の推進
- 3 地域材の供給
- 4 木材価格の推移
- 5 森林路網の整備
- 6 放置竹林の整備
- 7 森林病虫害の被害・防除
- 8 特用林産物の振興

1 東部地区の森林の現状

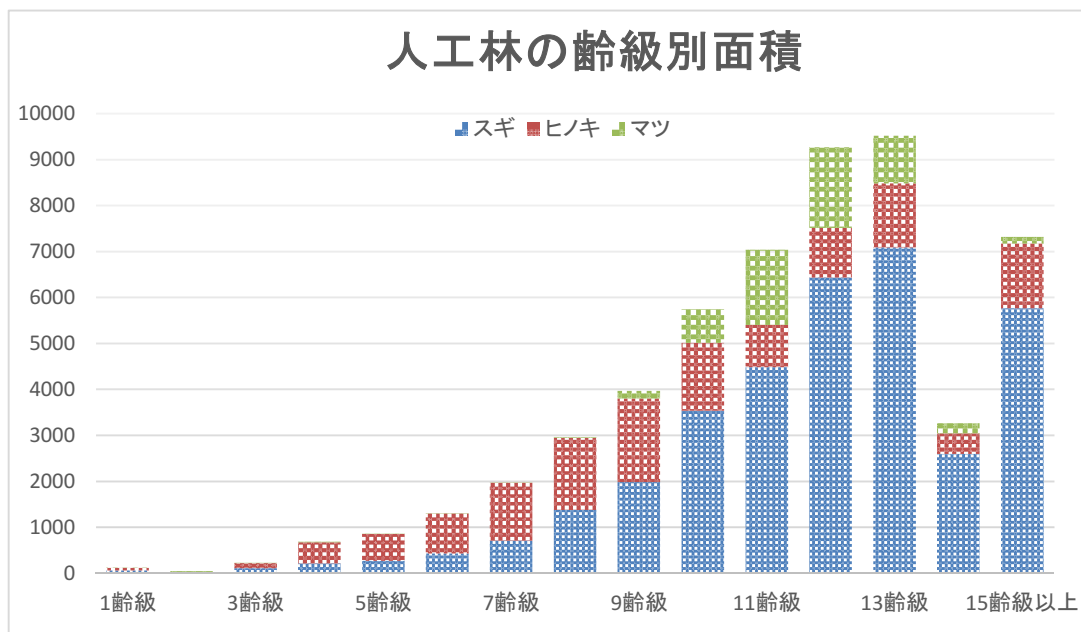
- ・東部農林事務所八頭事務所管内の林野面積は、120,872haと、総土地面積の約80%を占めている。
- ・民有林のうち、スギ・ヒノキ等の人工林は54,985haで、人工林率は約52%である。
- ・管内南部の若桜町及び智頭町は、古くから林業が盛んであり、県内を代表する林業地である。
- ・スギ・ヒノキの人工林資源は、徐々に成熟し蓄積が増加している。間伐を必要とする人工林が増大しており、路網整備や間伐団地の設定、高性能林業機械の導入等により低コスト林業を推進している。
- ・水源かん養等の森林の公益的機能への期待も高まり、森林環境保全の取り組みも広がっている。

【林野面積】

区分	総面積 ha	林野面積				民有林内訳			
		国有林 ha	民有林 ha	計 ha	林野率 %	人工林 ha	天然林 ha	その他 ha	人工林率 %
鳥取市	76,531	6,254	48,450	54,704	71.5	22,627	24,014	1,809	46.7
岩美町	12,232	417	9,481	9,898	80.9	2,726	6,406	349	28.8
八頭町	20,671	814	15,743	16,557	80.1	8,065	7,294	384	51.2
若桜町	19,918	5,075	13,798	18,873	94.8	7,939	5,726	133	57.5
智頭町	22,470	3,497	17,343	20,840	92.7	13,628	3,421	294	78.6
合計	151,822	16,057	104,815	120,872	79.6	54,985	46,861	2,969	52.5
県合計	350,705	31,725	227,731	259,456	74.0	124,195	96,295	7,241	54.5

資料：令和元年度林業統計

【東部農林事務所八頭事務所管内における人工林の現況】



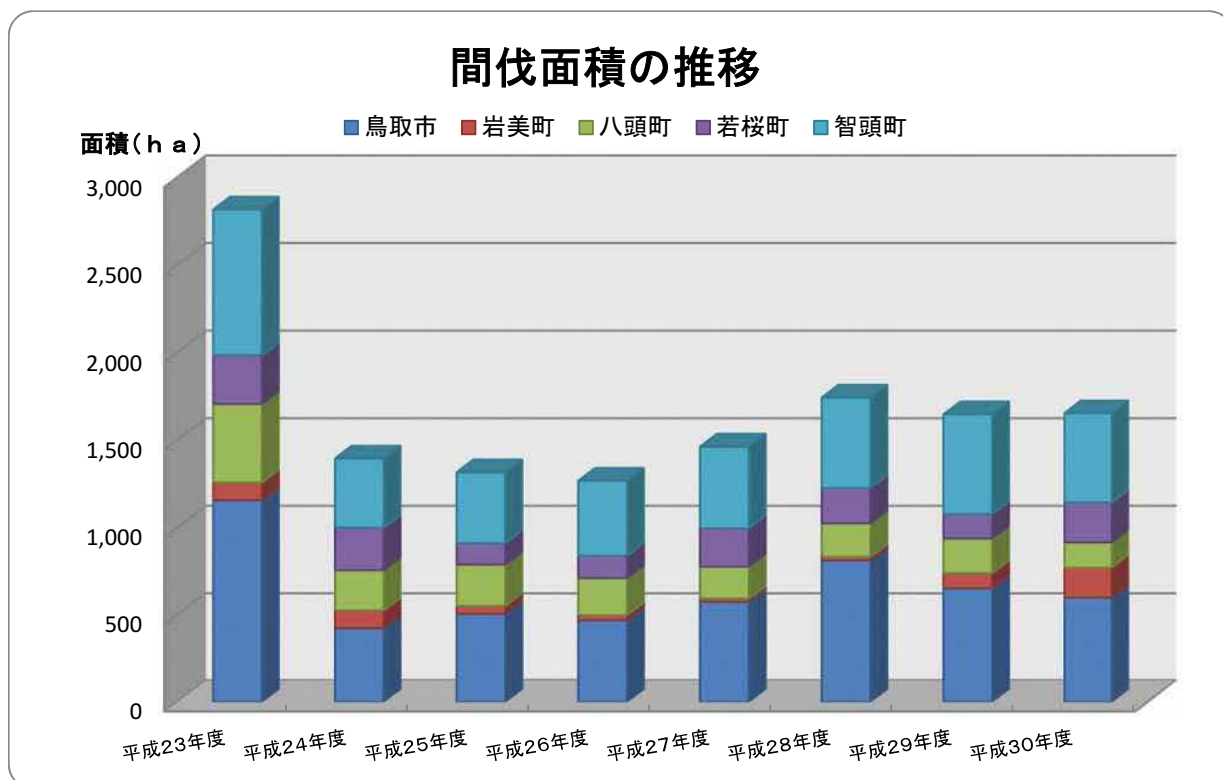
資料：八頭事務所調べ

2 間伐の推進

・人工林面積54,985haのうち、間伐施業の対象となる26～60年生は約6割の31,984haである。

・森林所有者に間伐の必要性を訴えながら、所有者への収益につながる間伐材搬出利用を積極的に進めている。また関係者と連携しながら施業の集約化や路網の整備、高性能林業機械の導入支援等による素材生産コストの縮減を推進している。

・間伐面積は現在1,500～1,700ha程度で推移しているが、素材生産量は年々大幅に増加し、それらの成果が出てきている。



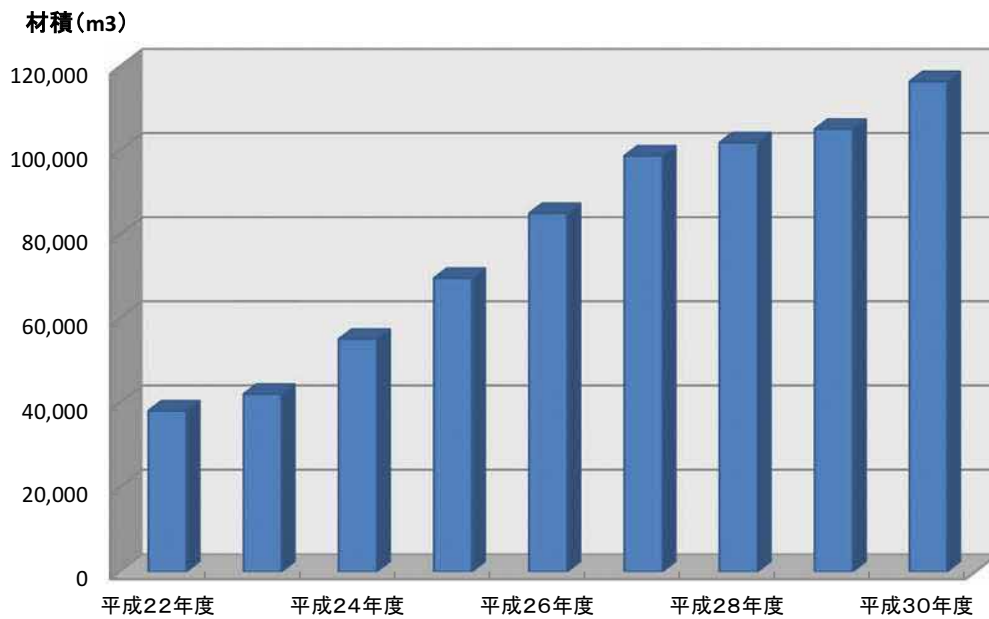
【市町村別間伐面積】

(単位: ha)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
鳥取市	1,158	425	508	471	578	815	656	601
岩美町	101	102	46	30	17	20	86	173
八頭町	448	231	237	212	184	191	198	143
若桜町	279	243	122	129	219	202	139	229
智頭町	831	395	404	427	466	516	569	508
計	2,817	1,396	1,317	1,269	1,464	1,744	1,648	1,654

資料: 令和元年度林業統計

間伐材搬出材積の推移



【市町村別間伐搬出材積】

(単位:m³)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
鳥取市	13,260	16,026	17,381	24,161	35,385	35,608	42,952	41,954	37,962
岩美町	0	960	1,764	865	0	100	488	3,217	6,900
八頭町	3,404	7,618	10,373	15,210	20,400	21,596	11,681	14,082	15,874
若桜町	6,995	6,302	7,552	8,494	9,939	12,739	12,883	12,963	18,967
智頭町	14,417	11,141	18,040	20,883	19,317	28,640	33,827	32,813	36,653
計	38,077	42,046	55,111	69,612	85,041	98,683	101,831	105,029	116,356

資料:八頭事務所調べ(事業実績)



(智頭町東宇塚地内)



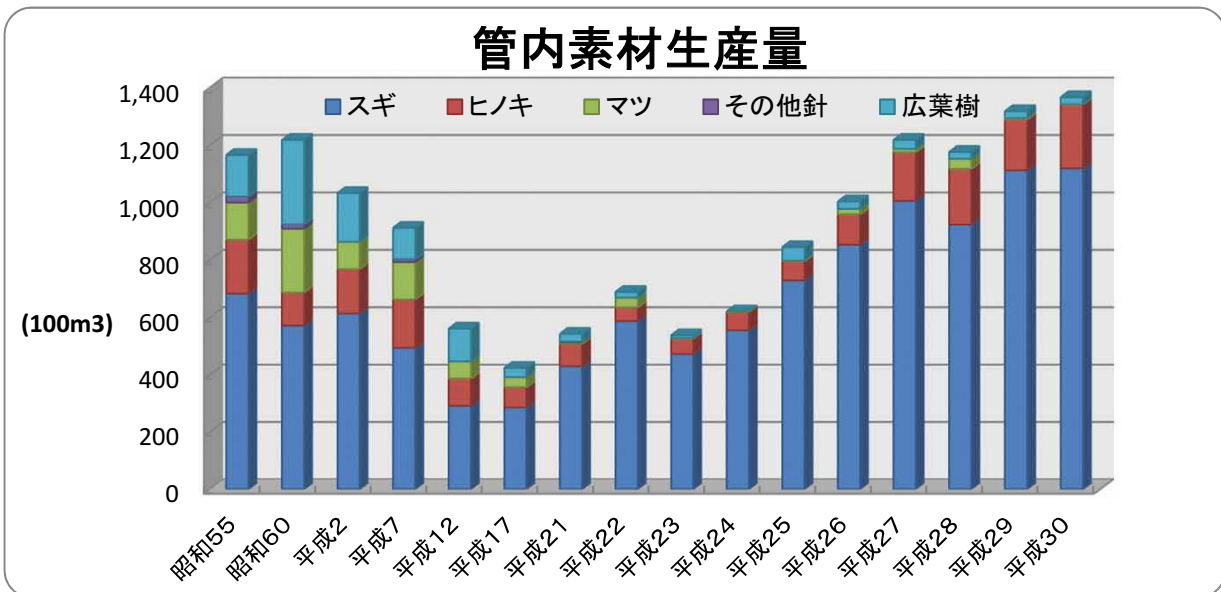
(用瀬町江波地内)

3 地域材の供給

・昭和55年をピークに材価が下がり、主伐が控えられ施業も長伐期に移行してきており、間伐材の生産が中心となっている。地域材の供給については平成18年頃からは蓄積の多くなったスギやヒノキの生産量が大きく伸びている。

・地域材の利用拡大のためには乾燥材や性能が確かな製品の生産、消費者ニーズにあった製品の生産・供給が必要である。

・公共建築物における木造化や木質内装化が進められており、公共施設における県産材の利用拡大を一般住宅等へも波及させることが重要である。



資料：令和元年度林業統計

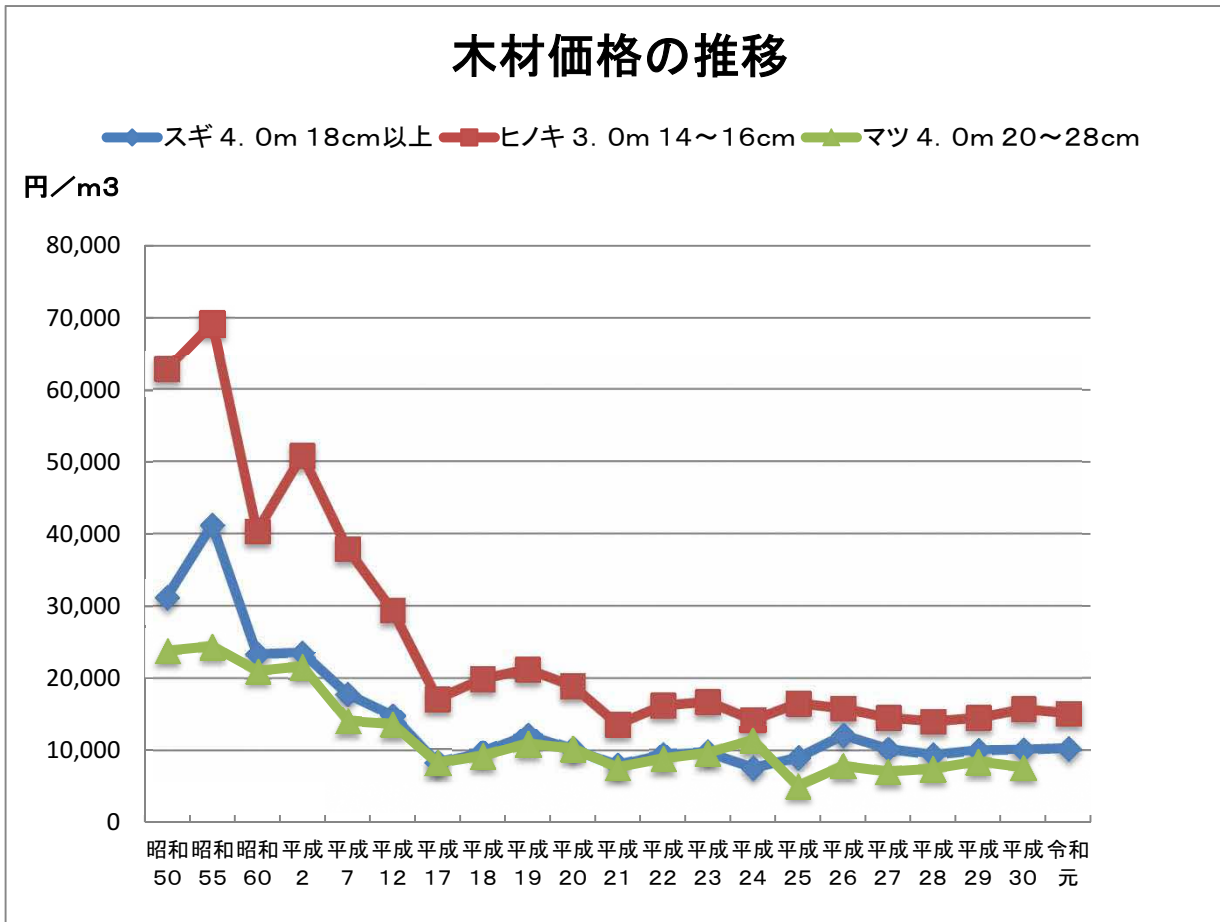
【地域材を使った木造建築物】



4 木材価格の推移

・木材価格は長期にわたり低迷を続けてきていたが、平成19年頃から兆しの回復は見られたものの、平成20年9月のリーマンショックを期に下落した。このことが人工林の維持管理を停滞させる要因の一つになっていると思われる。

・持続的な森林整備のためには、収益の確保や継続的な木材利用の仕組みづくりが求められる。また、木質バイオマス発電への木質資源の需要拡大による地域材の利用拡大・価格上昇にも期待したい。



資料：令和元年度鳥取県林業統計

※平成18年までは鳥取県森林組合連合会木材共販所、平成19年以降は(株)石谷林業智頭支店の素材市売状況